演題 118	当院を緊急受診した施設入所高齢者 187 例の検討
	発　表　者　能美 雅之[1]（島根県　浜田市国保診療所連合体弥栄診療所[1]）
	共同研究者　阿部 顕治[1]、木島 庸貴[2]（島根大学医学部総合医療学講座[2]）

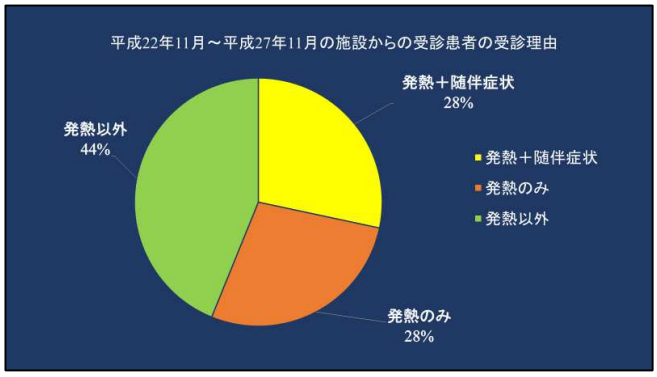
島根県浜田市弥栄町は、島根県の中央やや山口県よりにある浜田市の山あいに位置し、浜田市の中心部までは車で約 30 分の距離です。農業が産業の中心で、春には写真のように美しい桜並木を楽しむことができます。

弥栄町の人口は今年の 8 月末で 1,378 人、高齢化率は 46%となります。町内には医療機関は当診療所の 1 ヵ所のみあり、介護施設は町内に 2 ヵ所あります。

そのうち特別養護老人ホームは当診療所に隣接した敷地に建てられており、アクセスの容易さから施設での急病患者の多くは当院を受診します。

しかし、施設の入所者は寝たきりで自分の症状を伝えられない方も多く、施設職員は病状の把握に苦労していると聞きました。この度、施設から当診療所を受診した過去の症例をまとめることで、介護の現場においてどういった症状により注意を払うべきかを明らかにすることを目的として調査を行いました。

方法です。平成 22 年 11 月から平成 27 年 11 月までの 5 年間に、隣接する特別養護老人ホームから当診療所を受診した患者の受診理由、診断名、転機を診療録から後方視的に検討いたしました。病状改善もしくは後方病院への紹介までの一連の受診を 1 件としています。

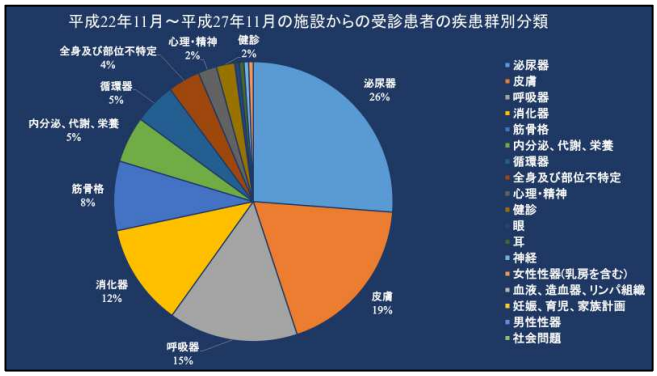


平成 22 年 11 月から平成 27 年 11 月までの 5 年間で、計 187 件の受診がありました。

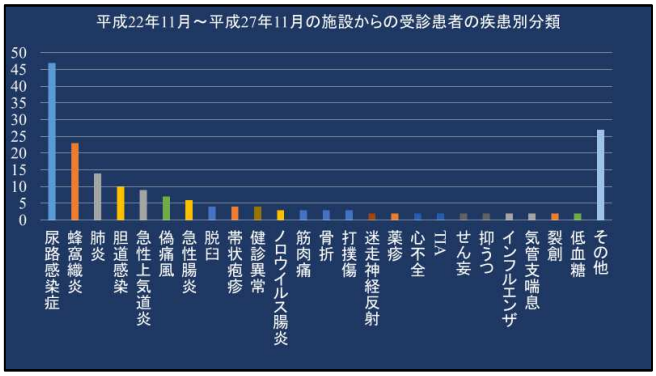
グラフはその受診理由を示したものです。受診された方の約半数は発熱が原因であり、さらにその半数は発熱のみでの受診でした。

発熱に伴う随伴症状としては、皮膚の発赤を伴っていたものが最も多く、ついで咳嗽や喘鳴といった呼吸器症状、嘔気嘔吐や下痢といった消化器症状が続きました。

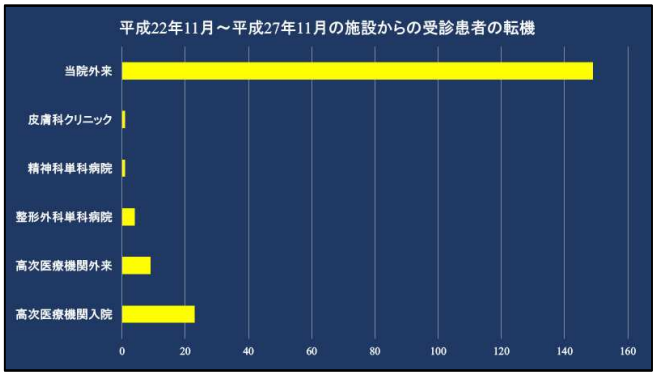
発熱を伴わない例としては発熱を伴わない呼吸器症状や消化器症状などに加え、関節痛や浮腫、皮疹や皮膚の裂創、さらにはベッドからの転倒など様々な受診理由がみられました。



受診 187 例を当院での診断結果を疾患群別に分類したグラフです。187 例の受診のうちでは、尿路感染を含む泌尿器科疾患の受診が最も多く 48 件、率にして 26%を占めていました。つづいて、蜂窩織炎を含む皮膚科疾患、肺炎を含む呼吸器疾患、急性腸炎や胆道感染を含む消化器疾患が続いていました。



受診患者の内訳を疾患別にみたものです。5 年間の受診患者では尿路感染症が最も多く、ついで蜂窩織炎、肺炎、胆道感染の順でした。



受診患者 187 例のうち、大部分の患者は当院で加療することができましたが、後方病院への紹介を要した例が 38 件ありました。このうち 38 例が救急機能をもつ高次医療機関への紹介となり、うち 23 件が入院加療を要しました。他には骨折の疑いや関節の腫脹に対する整形外科への紹介や、抑うつによる精神科への紹介、薬疹疑いによる皮膚科への紹介が見られました。

高次医療機関入院の内訳

胆道感染症	8件
尿路感染症	4件
肺炎	3件
大腿骨骨折	2件
その他	1件ずつ

敗血症、イレウス、高血圧性脳症、深部静脈血栓症、気管支喘息、低血糖、乳癌

高次医療機関への入院を要した 23 例の内訳です。入院を要した疾患としては胆道感染症が 8 件と最も多く、尿路感染症が 4 件、肺炎が 3 件でつづきました。尿路感染や肺炎は 5 年間でそれぞれ 47 件、14 件ありましたが、胆道感染は 10 例中 8 例が入院となり、高い確率で入院を要しました。また、受診患者が 2 番目に多かった蜂窩織炎では、入院を要する例はありませんでした。

胆道感染で当院を受診した例では発熱に加え、嘔吐や黄疸が契機となっており、こうした症状にはより注意を要すると考えられます。

【高齢者の発熱における検討例】

病院入院中に発熱をきたした高齢患者の検討では、発熱の原因として感染症が70.5%を占め、内訳は呼吸器感染34.5%、尿路感染症23.8%であった。

感染症学雑誌 72(5)；493-498

在宅高齢者419名の1年間の追跡調査では229件の発熱があり、内訳は呼吸器感染、皮膚軟部組織感染、尿路感染の順に多く、寝たきりに近いほど、また、認知機能低下が進むほど発熱の頻度が高かった

BMJ Open 2014;4 :e004998. doi:1136/bmjopen-2014-004498

高齢者の発熱を検討した文献においては、病院に入院中に新たに発熱をきたした高齢患者の検討において発熱の原因として感染症が 70.5%を占め、内訳は呼吸器感染 34.5%、尿路感染症 23.8%であったという報告や、在宅高齢者 419 名の 1 年間の追跡調査において 229 件の発熱の内訳では呼吸器感染、皮膚軟部組織感染、尿路感染の順に多いという報告があります。さらに同研究においては寝たきりに近いほど、また、認知機能低下が進むほど発熱の頻度が高かったという結果が得られています。

【まとめ】

5年間の受診患者187件の検討では、発熱患者が56%を占め、原因は尿路感染症、蜂窩織炎、肺炎、胆道感染症の順であった。

後方病院への入院を要したのは23件で、胆道感染症、肺炎、尿路感染症の順であった。胆道感染の例では発熱、嘔吐、黄疸を契機に入院となっていた。

今後は施設との情報共有をすすめながら、施設での看護・介護の向上に寄与していきたい。

まとめです。過去 5 年間に隣接した高齢者施設からは 187 例の受診があり、そのうち発熱患者が半数以上を占め、原因は尿路感染、蜂窩織炎、肺炎、胆道感染の順でした。後方病院への紹介を要したのは 23 例で、胆道感染、肺炎、尿路感染症の順となっていました。

今回の調査結果については施設との勉強会を開催し、フィードバックを行いました。今後も施設との情報共有をすすめ、現場での看護・介護の向上に寄与していきたいと考えています。